

### 東北の夏、短い夏、夏祭りの夏

東北では7月下旬に梅雨が明け、9月からは秋になります。8月の1か月が盛夏です。8月は東北の至る所で、夏祭りが行われます。

江戸時代、日本海では北前船が航海して、京都・大坂と北海道との間に、交易が盛んに行われました。京都・大坂からはし好品が、北海道からは水産物が積まれました。鶴岡や酒田（山形県）の港は、交易によって賑わいました。

また、北上川（太平洋へ）の江刺（岩手県）や米代川（日本海へ）の鹿角（かずの、秋田県）、最上川（日本海へ）の新庄等は、米や紅花等を運ぶ船の集積地として賑わいました。これらの商品取引で財をなした船主や商人達の財力によって、東北の祭りは豪華絢爛に行われ、現在に引き継がれています。

### 祭りはその村（地域）の伝統・生活・文化の一部、無くてはならないもの

東北では、祭りはその村（地域）の生活の一部です。村には神社があり、そこでは冠婚葬祭が行われ、お寺と共に地域の交流の場です。村の伝統・生活・文化は存続されなければなりません。祭りも、祖父母→父母→子→孫へと引き継がれます。

子供達は、小学生の頃から踊りを習います。村の寄り合いでも、踊りを練習します。寄り合いでは、次の夏祭りをどのようにするかが、大きな議題です。夏祭りの寄付も、寄り合いで、各家の格式によって割り当てる地区もあります。

福島第一原発事故で避難している、福島の仮設住宅でも、故郷に帰れなくても、祭りや踊りを復活させることが、大きな課題です。祭りが無くなれば、村も無くなるのです。

### 東北の夏祭りの特徴—踊りを見るのではなく、自らが踊る

東北の夏祭りには、いくつかの特徴があります。

- ① 祭りや踊りは、その村によってそれぞれが違います。東京音頭みたいなマイナーな踊りはありません。
- ② ほとんどの夏祭りは、昼よりも夜に行われます。
- ③ 夏祭りの日にちは、毎年同じ日にちです。土日ではなく、平日にも行われます。
- ④ 夏祭りの多くは、8月上旬に集中します。夏祭りをはしごすることは結構難しいです。
- ⑤ 夏祭りは大きく分けて、山車やねぶた等の曳くものと、盆踊りとに分かれます。
- ⑥ 夏祭りの会場は、広場ではなく、街の中の道で行われます。
- ⑦ 夏祭りは、踊りを見るのではなく、自らが踊る祭りです。踊りの途中で、見物人も一緒に入って踊ります。
- ⑧ 縁日や屋台は少ないです。香具師やてきやも、一緒に踊るからかもしれません。

夏祭りの夏、仕事をしている場合ではありません。私は、復興の遅れの理由の一つが分かりました。それは、夏祭りです。

【盛岡さんさ 女性のゆかた姿ではなく踊りを見て！？（岩手県）】



【黒石よされ 村ぐるみで老若男女が踊ります。観衆も一緒に踊ります（青森県）】

